

## 【体育科授業の実践】

(1) 単元名 マット運動（器械運動）（5 学年 6 月）

(2) 本時のねらい

開脚前転の技のポイントを知り、技ができるようにするための自分に適した練習方法を考えている。

(3) 活用に視点を当てた「考え、表現させる授業」の改善・充実

① 次のような既習事項の活用の工夫を行ったことは、習ったことを使って、根拠にしながら自分の考えをもつために有効であったか。

- ・児童一人一人が筋道を立てて考え、判断できるように、前時までに学習した既習事項を掲示し、振り返る活動を行う。
- ・学習カードを活用し、毎時間、ねらいに基づいた振り返りを行うようにして、授業を通してできるようになったことや気付いたことを確認する活動を行う。

② 次のように考えを広げたり深めたりする工夫を行ったことは、よりよい考えを見だし、自分の考えをもつために有効であったか。

- ・タブレットを活用し、撮影した動画をもとに各児童の運動の変容を確認する活動を行う。
- ・友達と「技のポイント」や練習方法に関して指摘し合えるように、意図的なグループ編成したり、付箋を活用して交流したりするなどアドバイスし合う活動を行う。

(4) 授業の様子

① 既習事項の活用の工夫

この授業で活用できる既習事項

○ 基本的な回転技（前転・後転）（第 4 学年）

本時の学習課題を把握し、解決方法の見通しを立てる場面で、児童一人一人が筋道を立てて考え、判断できるように、前時までに学習した前転や後転の既習事項を掲示し、振り返る活動を行った。「今まで練習してきた技から、今日行う開脚前転に生かせる技やポイントはあるかな。」と問うと「前転」が生かせることをすぐ確認できた（図 1）。「他にはないかな。」と問うと、「勢いをつけるなどのポイント」も生かせることが確認できた。このことにより、本時の課題を明確にもつことができた。そして、解決方法として「今まで学習してきた技や技のポイント」を活用すれば、開脚前転ができるようになるための、技のポイントに気付くそうであると全員で共通の見通しがもてた。



【図 1 既習の技やポイントを確認】



【図 2 学習カードの活用】

また、学習カードを活用し、毎時間ねらいに基づいた振り返りを行うようにして、授業を通してできるようになったことや気付いたことを確認する活動を行った（図 2）。それにより、前時の技と本時の技を照らし合わせ、似ているポイントはないか比較し、開脚前転の技のポイントを考えることができた。

## ②考えを広げたり深めたりする工夫

課題の追究の場面では、友達と「技のポイント」や練習方法に関して指摘し合えるように、意図的なグループ編成したり、付箋を活用して交流したりするなどアドバイスし合う活動を行った（図3）。

また、各グループでタブレットを活用し、撮影した動画をもとに、運動の変容を確認する活動を行った（図4）。その結果、友達の動きやアドバイス、動画の映像から、自分だけでは気付かなかった「技のポイント」に気付いたり、自分に適した練習の場を考え、選んだりすることができた（図5）。



【図3 付箋の活用】



【図4 タブレットの活用】



【図5 練習場所の選択】

さらに、すぐに「試したい」という意欲的な声も聞かれた。その後、開脚前転の習得に必要な「技のポイント」を意識して、各場所で自主的に練習に取り組む中で、「できた」「立てなかったのに立てた」などの声も聞かれ、実践に生かすことができた。

まとめの場面では、本時の学習を振り返り、学習カードに記入してまとめる活動を行った（図6）。その中で、友達のアドバイスを参考に、技のポイントに気付き、開脚前転ができた児童と自分がアドバイスしたことで、友達ができるようになった児童の両方の姿が見られた。また、「今まで習った技のポイントが新しい技にも生かせることに気付いた」と、単元を見通した学習カードから答えた児童もいた。

## (5) 成果と課題

### ①既習事項の活用の工夫について

前時までに学習した前転や後転の既習事項を掲示し、振り返る活動を行った。このことで、本時の課題を明確にもつことができた。

また、今まで学習してきた技や技のポイントを活用したことは、開脚前転ができるようになるための技のポイントに気付けそうである、と全員で共通の見通しをもつことに有効であったと言える。しかし、掲示物だけではイメージが難しい児童が見られたことから、実際に模範演技の提示があるとより技のポイントがつかみやすくなったと考える。



【図6 振り返り】

### ②考えを広げたり深めたりする工夫について

マット運動を苦手とする児童にとって、技のポイントを見つけたり、自分に適した練習を選んだりすることは難しい。そのため、意図的なグループ編成したり、付箋を活用して交流したりするなどアドバイスし合う活動を行ったことは、友達と「技のポイント」や練習方法に関して指摘し合えることに有効であったと言える。

また、各グループでタブレットを活用し、撮影した動画を確認したことは、各自の運動の変容に気付けるとともに、友達の動きと比較し開脚前転の技のポイントを考えることに有効であったと言える。